

特501

597

社会民主主義と議会

国立国会図書館



\* 0005980000 \*

0005980-000

特501-597

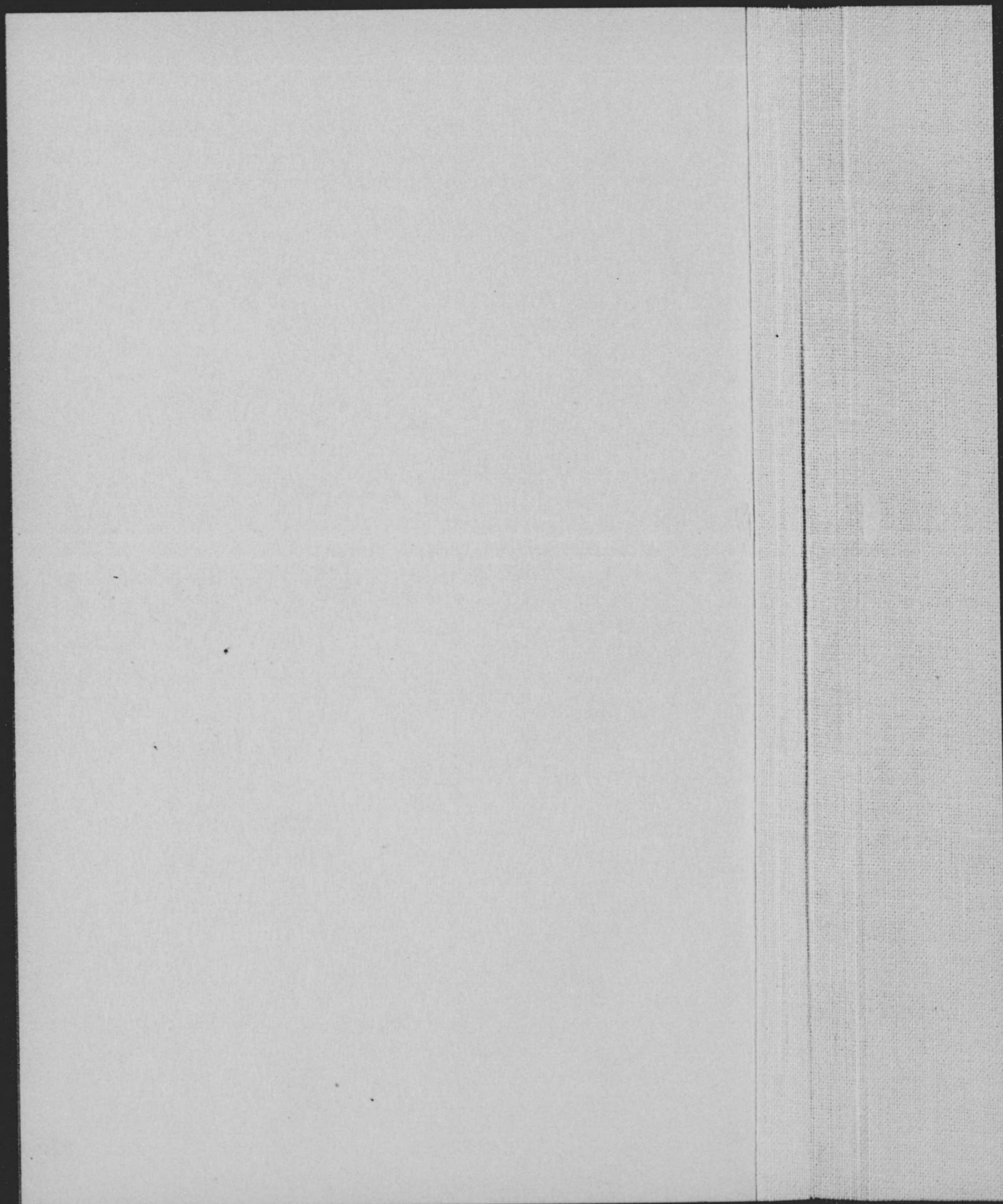
社会民主主義と議会

選挙闘争同盟全国委員会

昭和5. 2

ABE







HM #

REG-103

82145

226

圖書課長

一九三〇年二月

選舉鬭爭同盟全國委員會

社會民主々義と議會

專務官

革命的労働者農民を議會に送れ！  
社會民主々義を粉碎しろ！

革命の労働者農民を議會に送れ！  
社會民主々義を粉碎しろ！

議事録

共産主義者支持を強固にする

内務省  
昭和 5.2.19 禁止  
第223號

勅



特501  
597



79W10059

### 社會民主々義と議會

226

第五十七議會は解散された。謂ゆる第二回總選舉をひかえて、社會民主々義諸黨はブルジョアジイと呼應し、それに協同して奮闘してゐる。國家的規模において強力に遂行せられる資本家的産業の合理化、帝國主義戰爭の準備、恐怖政治の強行と欺瞞的社會立法の實施、その他一切の金融資本の政策、働勞者農民をヨリ強く搾取し、抑壓するブルジョア・地主の政策を「國民の審判によつて決定した」かの如く見せかけるための新議會に参加して、大いに奴らに協同しやうとしてゐる。

社會民主々義諸黨はいづれも共通して「既成政黨の打破」とか「賄賂政治の撲滅」を口には叫んでゐるが、このことは決して彼らの眞意に矛盾するものではない。革命的働勞者農民はすでにハツキリと彼らの議會主義を見きわめてゐる。彼らの指導下にある大衆にも、彼らの議會主義に對する疑惑がひろまつてゐる。戰爭的働勞者農民は、第五十五、第五十六議會における「無産議員」の階級的裏切りに對してハラ一杯の憎惡を抱いてゐる。唯一の革命的代議士・同志山宣は、フアシスト黒田を下手人とする白色テロルにタホされたが、残りの「無産議員」共はその安全を支配階級によつて保證され



た。なぜな、彼らはブルジョアジーのためにのみ存在し、ブルジョアジーの経済的・政治的支配に協同し、労働者・農民を資本の狂暴な搾取に捧げるためのブルジョア・地主の忠實な番犬にすぎないからである。

## 二

社会民主主義者は一九二八年二月の第一回総選挙において、労働者・農民・小市民のおくれた層に議会主義的幻影をフリまき、ブルジョア議会における「無産議員の活動」に期待を持たせることに成功した。この総選挙において社会民主党は一七名の候補者を立て、一一四・九六九票を得た。日本労働党は一三名の候補者で八六・九九二票、日本農民党は七名で四五・三七一票、地方無産諸党は同じく七名で四六・六一七票を得た。社会民主主義者がカキ集めた以上の総票数は二九三・九四九票に達した（候補者総数は四九名）。——（これに對して、若干の議会主義的誤謬を犯したとはいへ、日本共産党の指導の下に革命的闘争主義の立場に立つて支配階級の集中的弾壓のなかを闘つた舊労働党の總得票数は候補者四〇名に一九二・五五二票であつた。）

彼ら社会民主主義者共は、この二九三・九四九票をば社会民主主義的・改良主義的欺瞞によつて獲得

し、社会民主主義諸黨は六ツの椅子をブルジョア議会に得ることができた。彼らはその後、水長の参加によつて更らに一つの椅子を加へた。年來の宿望かない、こゝにはじめてブルジョア代議士の隊伍に列して、七名の「無産議員」ほんたうな議会行動をやつたやうか。眞に階級的行動の匂ひでもあつたらうか。彼らは、自分達を選挙した労働者・農民・小市民に公約した幾多の改良主義的政策のうち、たゞの一つでも實現したか。いゝや、何もない。

第五十五議會における彼らの行動は「田中反動内閣打倒のためにはスベテを忍ぶ」といつて、民政黨および明政會への服従に終始した。特に社会民主党代議士は、明政會ならびに尾崎行雄が提出した経済的國難の決議案や政治的國難の決議案に對して「労働組合法、小作法の制定、普通選挙法の改正等の民衆的主張挿を入れて修正通過せしむべし」と頑張つて、社会愛國主義を遺憾なく發揮した。しかし第五十五議會では、彼ら自身でも辯解してゐるやうに「議會駈引の未熟」であつたため、ブルジョアジーおよび社会民主主義者としては遺憾な點も多かつたやうである。彼らが労働者農民に約束した改良主義的要求のために、モウ少し戦ふ様子をせねばならなかつた、と彼らは思つたのだらう。そこで彼らは「停會に次ぐ停會をもつてした第五十五議會」にその責任を押しつけたのである。

第五十六議會では、彼らは前の第五十五議會におけるよりもより多く、より積極的に行動した。だが



それはブルジョアジーとの協力の下に、議會における唯一の革命的代議士・同志山宣の言論を極力封鎖しつゝ、行はれた。同志山宣は、彼に對するあらゆる言論封鎖と争ひ、あらゆる機會を捕へて革命的運動への弾壓に對する抗議を中心に、最も勇敢に行動した。彼によつて豫算委員會第二科會においてなされた「**異常時の不當投票 共産黨事件の拷問 不法監禁等に對する質問**」は、革命的プロレタリアートの、農民の胸底に永久に力強く響いて來る。彼はまた治安維持法改正（改悪だ）緊急勅令事後承諾案に對しては、死を賭して戦ふ覺悟を洩してゐた。すなはち彼は決死の草稿「治安維持法改悪反對論」をものしてゐた。にも拘らず「無産議員」團は水長を壇上に送ることゝして、同志山宣から發言すべき最後の機會を奪ひ去つた。労働者農民の死刑法が議會を通過したその夜（三月五日）、同志山宣はファシスト團員、元巡査の黒田某の刀に刺された。第五十六議會は、唯一の革命的代議士・同志山宣の鮮血をもつて彩られた！

これに反して鈴木、龜井、西尾は思ふ存分その本領を發揮した。鈴木は首相、藏相の施政方針演説に對して質問し、一「労働者の團結を法認する意志なくしてナンの社會政策ありや」と支配階級に合法的労働運動の法認を進言し、二「國際労働條約の批准を拒否つゝあるではないか」と國際労働會議に對する労働者の信頼をつなぎとめるために條約の批准を迫り、三「**なぜ國民政府を正式に承認しな**

いのか」と今や完全に帝國主義の奴僕と化した國民政府を正式に承認するのが賢いヤリカタだと申し述べ「さすがにブルジョア代議士をして沈黙のうちにこれを謹聽せしめた」（社民黨第四回大會報告書）さうである。西尾の内閣彈劾演説（民政黨の内閣不信任案に合流せる）もほゞ同じやうな内容を繰りかへした。彼は特に「**會運動を合法的に進展せしめるための社會立法に對する田中内閣の怯懦**」を強調した。その語調は、俺がついてるから大丈夫だ、といはぬばかりだつた。龜井は豫算總會において滿州事件に關する質問を試み「村岡關東軍司令官が外務省出先官憲をさしおいて張學良に外交上の意見を述べたのは不都合ではないか」と詰問し、田中外交が拙劣で、日本帝國主義を不利に導くものだと言ふと説き聞かせた。かゝる彼らの行動や言質を一々取り上げて、その欺瞞的性質をアバキたてたらキリがない。彼らはまた労働組合法案、健康保險法案、公娼制度廢止案等を提出して、大いに議會主義的幻影を培養した。

日本大衆黨の淺原と河上、労働大衆黨の水長もまた同様だ。水長は治安維持法改悪反對演説において同志山宣が死をもつて絶叫せんとしたところは全く反對に「わが日本の國體は……思想的内亂罪あるひは思想的外患罪において破壊されるといふやうなことは、われ／＼は斷じて考へてゐないのである」といふ理由から改悪反對をやつた。この水長といふ男は中學校の校長よりも固いブルジョア的



信念を持つてゐる。プロレタリア・農民は、自分たちが選出された代表からこんなブルジョアの説教を聞かうとは思はなかつたらう。

三

今總選挙にあつて大小の社会民主党者がわれもわれもと飛び出した。今日まで全国にわたつて社会民主党は二七名、日本大衆黨は二〇名、労働黨は一名、全国民衆黨は四名、地方無産黨は四名の公認候補者を立ててゐる(二月四日現在)。それと同時に社会民主党および、日本大衆黨は「帝國主義戦争反対」を選挙スローガンからヒツこめた。彼らの選挙スローガンには、もはやタダ一つの革命的要求もない。反対にそこには小市民を對象とした要求が増加してゐる。社会民主党は「俸給生活者保護法を制定せよ」「小商人に低資を融通せよ」「無産優秀子弟に公費で高等教育を與へよ」等をスローガンに掲げてゐる。

日本大衆黨は昨年十一月二十一日に發表した金解禁に對する聲明書において「中小商工業者に對する金融施設の擴充」を當面の政策の一つとして掲げた。彼らは直接には總選挙に際して、小市民層から投票を得るために、また全體としては、漸次その組織的基礎を労働階級から小市民層へ移動しつゝ、

ある結果として、かういふ方向をたどつてゐるのである。現に、日本大衆黨の選挙闘争方針は「選挙闘争を言論に集中し……農民組合、労働組合等の組織の擴大を二次的の目的として小市民階級の獲得に努力すること」といつてゐるのも明かだ。社会民主党や日本大衆黨は、小市民的政策・スローガンを増加するとともに、ちろん労働者・農民に對する改良主義的、社会民主主義的政策・スローガンをより巧妙に使用して欺瞞をタクマしうする。そして彼らは、労働者・農民を、彼らが眞に叫ばねばならない革命的諸要求から引き離し、そしてまた第五十五、第五十六議會において、ただ一つの改良主義的政策をすら獲得できなかった原因を、ひとへに「議席の過少」に求め、英國労働黨政府の「勝利」を持ち出してゐる。だが革命的労働者・農民は英國労働黨政府が印度ならびに埃及の革命的プロレタリアートに武器を向け、ランカーシヤ紡績工のストライキを壓殺した下手人であることを知つてゐる。

労働黨の革命的傳統を繼承する」と僭稱する新労働黨の左翼社会民主主義者は右翼、中央派社会民主主義者に劣らず、イヤむしろヨリ以上に悪性である。彼らは「農民に土地を與へよ」「労働者・農民の政治的自由獲得」「帝國主義戦争絶対反対」を中心スローガンとして、一步左翼化する労働者・農民を欺瞞せんとする。だが労働者・農民は、そこに選挙闘争同盟の掲ぐる「労働政治犯人の即時釋



放！」その他、幾多の革命的スロトガンが見當らず「労働者・農民の政府樹立」が影を消したことを看破するだらう。

右から左までの社会民主主義者はいま一致して日本共産黨の革命的共産主義と抗争し、革命的労働者・農民の革命的選挙闘争の破壊に協力してゐる。選挙闘争は日本共産黨を急激に強化するとともに、社会民主主義諸黨もその影響を大衆の中に増大するであらう。と同時に彼らの戦線統一が一步進められるだらう。日本大衆黨と全國民衆黨との選挙協定の成立、あるひは社会民衆黨、日本大衆黨いづれも「自黨の候補者無き地方では、黨員は他の無産政黨候補者に投票すること」を原則として決議してゐる。社民黨松岡は、社会民主主義諸黨の現在の対立状態を「それはブルジョア黨との関係から見れば正に対立ではなく並立である」といつて、將來の社会民主主義の戦線統一に一步を踏み出した。だが松岡は、かういつた方がヨカつたのだ。——「ブルジョア黨との関係からではなく、日本共産黨に對する關係から見れば……」と。なぜなら彼らは元來ブルジョア黨の一分派であり、しかも労働者階級の内部へ派遣された、奴らの手先きなのだから。

われわれの選挙闘争は終結、徹底的な闘争を遂行するに至つてのみ、眞に強力に戦はれるのだ。

今日、金融資本の獨裁が強化され、立法機關の重要性が失はれ、ブルジョア政治支配のファッショ化が進行してゐるが、その動きは同時に以前とは異つた性質において立法機關の役割を増大した。日本の政黨政治は、日本資本主義の發生當初よりの國家資本主義的特質のために極めておそく成長したが、同時に日本の政黨政治はその實質的存在の期間を極めて早く経過した。日本の政黨政治の確立は大正十二・三年の護憲運動において表現された。だがその時以後の「議會の腐敗」はブルジョア新聞すらも指摘してゐる。議會は終始いはゆる「泥合戦」によつて埋められた。議會は金融寡頭政治の確立によつてブルジョア民主主義の所産として、ブルジョア民主主義の政治支配の機關としての意義を失ひ、然るものとしての使命を終つたのである。だが議會はそれと同時に、別の重要な新しい存在理由を持つに至つた。支配階級は議會をこの新たな役割の遂行に配置した。

支配階級は議會主義の再生産によつて、金融寡頭政治を蔽ひかくし、それを合理化し、労働者・農民の闘争を議會主義に抑制して革命的軌道から逸脱せしめ、労働者・農民の革命的政治的成長を防ぎとめる一機關として、新らたなる重要性を議會に賦與した。支配階級が自ら進んで普通選挙法を實施



したのは、まさにこの目的のためである（現在の普通選挙法がブルジョア的にも非常に制限されたものであることはもちろんであるが）。普通選挙法を実施すると共に治安維持法を制定し、他方において議會主義を標榜する社會民主々義黨の培養政策に意識的進出を試みたのもこの目的のためである。革命的闘争主義の立場に立ち、議會を革命的政治闘争の一合法的分野として利用し議會外の大衆行動を援助せしめるために、議會に革命的労働者・農民を送りこむ革命的プロレタリアートに向つて、彈壓の砲火をあびせかけたのも、この目的のためである。最近やかましくブルジョア自身「議會の淨化」「選挙の革正」を宣傳してゐるのも此のためである。労働者・農民が現在の政治支配に對する階級的理解を深め、彼等の政治的・經濟的解放、日常利益の伸張が議會への参加による「漸進的改革」によつては望まれないことを理解するに至るのを極力防止し、労働者・農民の政治的關心を議會に集中するためには、先ず議會に對する信用を増さしめねばならない。議會を「權威」あるものに見せねばならない。「議會の淨化」「選挙の革正」は要するにそのためのアキラツな宣傳である。最近の「疑獄事件」も専ら疑獄の「根本原因」を選挙費用に求め、そうすることによつて來るべき新議會に對する國民の信頼をかち得ようとする發意のもとになされた。潰職大官共は實に金融資本のフアツシヨ的支配の維持——議會主義の再生産によるその合理化——のための「運なる犠牲者」であり、金融資本に奉仕するに「選ばれたる不幸なチャンピオン」であつた。

五

右から左までの社會民主主義者は、公然と議會主義を讀へる者であれ、あるひは勞農黨の如く議會外の日常政治闘争に従屬せしめ、うんぬん」と左翼的粉飾を弄する者であれ、いづれもその根底においては、ブルジョアジーの善良な使徒であり、合法主義者であり、忠實な議會主義者である。社會民衆大會、あるひは日本大衆大會を傍聴した者は、大會に提出され、一しや千里に可決された山なす社會民主主義的議案の中に、その實行方法を「我黨議員に一任すること」乃至は「我黨議員によつて議會に提出すること」と決定したものが如何に多かつたかに、今更ら驚いたに違ひない。

社會民衆黨がキツスイの議會主義黨であることは既に知れわたつた事實である。機會ある毎に公然と「國家の擁護」を叫び、現秩序の維持に支配階級と協同してゐる同黨は、如何に「既成政黨の墮落」を旗頭にに掲げようとも、彼らが支配階級の一分派であることに間違ひはない。「既成政黨の墮落」を叫び、「選挙の革正」を唱へ、「議會の淨化」を宣傳すること自體が、議會を權威あるものと見せようとする支配階級の現在の政策に策應するものである。社會民衆黨主安部は、議會内に酒を禁止するため



に努力したり、政府の選挙革正委員会に参加したりしてゐる！ 彼は政友會議員、あるひは民政黨議員から、「安部先生、安部先生」と「尊敬」されて居る！

日本大衆黨も同じ穴のムチナである。昨年十二月二十二日に發表された同黨の「第五十七議會に對する聲明書は次の文句で結ばれてゐる。『議會は大衆運動の尖端である。われらは全國民大衆の尖端としての戦野を展開せしめんことを期す』と。彼らの議會主義が躍如として居るではないか。

次に勞農黨は幾分でも革命的であらうか。断じて否。彼らはただ幾分革命的言辭を弄し、革命的議會主義の衣をまとわうとして居るだけだ。彼らが勞農黨をつくつたのは、何よりも先づ「濱口内閣は選挙をする！」と見通したからに過ぎない。彼らが勞農黨をつくつた一番近い目的は、今度の總選挙だつたのだ。彼らは、一應は「議會内の闘争を議會外の大衆行動に従属させ、それを援助させるものだ」といひ、こんどの選挙闘争においても、「わが黨は當選第一主義ではない。日常政治闘争のため恒常的組織の擴大を第一義とする」などといつてはゐるが、彼らが議會外の大衆行動の中心は、市民中心の合法的演説會以外にはない。

今日此處に革命的共産主義の立場に立ち、議會の解體を要求し、労働者・農民の政權の樹立（ソヴェト）を要求し、プロレタリア獨裁を要求し、その必要條件として、労働者・農民の革命的政權の樹立を要求する。この唯一の黨、日本共産黨のみである。一切の議會主義的傾向と徹底的に對峙。労働者・農民をこの擁護から解放するために闘ふ政黨は日本共産黨唯一つである。爾餘の一切の「無産」政黨は、これも社會民主主義政黨であり、労働者・農民の革命的政權を議會主義的政治闘争に押し込めようとするものである。

あらゆる資本家地主の政府に反対だ！

資本家地主の手先、社會民主主義者を葬れ！

日本共産黨を守れ！

革命的労働者農民を議會に乗せよ！

労働者農民は選挙闘争同盟へ！

日本共産黨の旗の下に！



VEGT-103

355218



